

奈良高専 図書館だより

No. 25

記事

1. 高度情報化社会に向けて
2. 卒業生からのメッセージ
3. 昭和63年度読書感想文について
4. “一冊の本”を見つけよう
5. “アバルトヘイト”を学ぶ
6. 図書室利用統計
7. お知らせ

1988年7月 奈良工業高等専門学校図書室 発行

高度情報化社会に向けて 個性的な知的情報ネットワーク構築のすすめ

図書館委員長 石垣 昭

最近、研究資料を調べる必要から永田町にある国会図書館へ行きました。さすがに我が国を代表する図書館だけあって施設、設備が完備し、館内の喫茶室でコーヒーを飲んでいるうちに頼んでいた文献のコピーが出来上がっているというふうに、大変快適に利用できるようになっています。

利用している人も、普段は漫画雑誌を読んでいるほうが似合いそうな若いひとからお年寄りまでさまざま、色々な職業のひとが利用しているように思われました。いずれも、熱心に、真剣に必要な情報を求めて、本に取り組んでいました。

情報とは心に対するエネルギーであるという人がいます。現代は情報化社会といわれ、必要な情報をいかに効率的に手に入れ活用できるかが大きなポイントになります。情報化社会というと無味乾燥なコンピュータの支配する世界を連想しがちですが、大海のような情報源から必要な情報を選択し、意志決定することはコンピュータの助けを借りるとしても、最終的には我々自身でしなければなりません。国会図書館で真剣に情報収集に取り組んでいる色々な年齢層の人々の姿も情報化社会の反映と言えるでしょう。

ただ、残念なことに国会図書館の入館には20才以上という制限があり残念ながら君たちの大部分のひとには利用できません。しかしながら、君たちも否応なしに近い将来このような情報収集機関を本格的に利用しなければならなくなる時期が来ると思います。21世紀は高度情報化社会と言われます。本格的な高度情報化社会の到来にむけて、ささやかながら6万冊近い蔵書を持つ本校の図書館を利用して情報収集の基礎を身につけておくことは君たちの将来にとって大変、意味のあることだと思います。

このような基礎を身につける方法は色々あると思いますが、その一つの方法として、ひとりひとりの自由な選択による個性的な知的情報ネットワークづくりをしようか。これは、別に難しいことではありません。例えば、課題のレポートを書く為に調べたことでも、それを、その場限りのものとししないで、以前、別の課題で調べたこととの関係を調べながら、自分だけの情報ネットワークに組み込んで行くのです。

自分の専門分野以外でも、例えば、テレビの人形劇三国志に興味を持った人であればこれを拠点として広大なネットワークを構築することができます。もちろん、中国古典文学全集の三国志演義を読むこともできますし、桑原武夫全集を開くと、この有名なフランス文学者が如何に三国志を愛読していたかを知ることができます。この桑原武夫全集から三国志とは離れて、文字について、登山について、西堀

南極越冬隊長について等、数多くの事柄を知ることが出来るでしょう。めったに論文や本を書かないことで有名な西堀さんの南極越冬記（岩波新書）を読めば、極限状況下でのリーダーシップについて、東芝で活躍した実践的技術者としての西堀さんの一面についても知ることができます。これも、知的情報ネットワークのメリットです。

一方、三国志の舞台となった時代を調べることで、当時の日本は卑弥呼の時代からそれほど遠くない弥生時代であったことがわかります。弥生時代はそれより古い時代の縄文時代に比べると、人口がある時期に急激に増加しています。これを、三国志の動乱期に平和を求めて中国南部から海を渡って日本に移住し、同時に本格的な稲作技術がもたらされたと考える説もあります。三国志演義を読むと、このような農民の苦しみが理解できます。稲作技術の普及が日本固有の文化におよぼした影響や、縄文人と弥生人の違い、弥生人を征服したとする江上波夫さんの騎馬民族説等、ネットワークを考古学、歴史学、民族学の分野に広げることもできます。

以上は、三国志を出発点としたほんの一例に過ぎません。自分で拠点を作って自由に個性的なネットワークを構築すれば良いのです。

21世紀の高度情報化社会に向けての基礎をつくるうえで、受験勉強に縛られない高専の5年間はまさに絶好のチャンスではないでしょうか。

卒業生からのメッセージ

私と図書館

機械工学科 畑 尚 治

「5年前の今頃はまだ中学生だったんだなぁ。」と考えると、この5年間は本当に短かかったとします。「図書館について一言」ということなのですが、特に図書館で熱心に勉強したとか、図書館に対して強い要望もないので、思いつくままに何か書いてみようと思います。読みづらいと思いますが御勘弁下さい。

よく利用したのは文庫本や新書のコーナーでした。私は理科と数学が苦手で手先が不器用、頭の回転は人一倍おそくて機械や電気のことは全くわからないし興味もない、というのに「なんとかなるだろう」という安易な考えで高専に入っていました。そのために周りができる人ばかりの中でどうにもならない専門科目や数学、物理などに早くから挫折していました。「自分は文系の人間なんだ」という開き直りと将来を模索するつもりで本をむさぼり読んでいたのだという気がします。5年になるといろいろと忙しくなったり、進むべき方向が具体的なものとなったために、よく考えてみると読書らしい読書はほとんどしていませんが、それまでに本が教えてくれたことは多かったと感じています。小説や随筆では自分とは何なの

かとか、どういう生き方をすればよいのかななどを考えさせられましたし、新書や紀行文というのは自分の知らない世界をのぞくことができおもしろいものでした。5年生の1年間はこういった読書の恵みを受けていなかったので、春からはまた読書をしなければと近頃思っています。

図書館の席で良い場所は、窓際にならんだ席です。外を見ていると気分転換にもなりますし、また、季節によって風景や人の動きもちがうので、なかなかおもしろいものです。この場所は昼寝にも最適で、レポートを書きながら居眠りをしてしまって、目が覚めるとまだ10行ほどしか書いてなかったということもしょっちゅうありました。期限のせまったレポートを仕上げたり、テスト勉強をするときはやめといた方がよい席という気がしないわけでもないのですが……。

奈良高専の図書館と県立図書館を比べてみますと、何か空気がちがうような気がします。県立図書館に行かれたことのある方ならわかると思いますが、しゃべってはいけないというよりは声がでてこないという雰囲気、ぼそぼそとしゃべっただけでも部屋中にひびいてしまいそうな感じがします。高専の図書館はというと全く逆で、ガヤガヤガヤ……「図書館は勉強するところ」と言ってしまうえば、高専の図書館はもっと静かであればならないのですが、私個人としては何時間いてもつ

かれない高専の図書館の方が好きです。でも、もっと静かなスペースというのが少しはあってほしいという気もします。

だらだらと書いてしまいました。図書館にはおもしろいことがたくさんあると思います。一度、図書館の中でもあまり行かない場所に行ってみてはいかがでしょう。何か新しい発見があると思いますよ。それから図書館のみなさん、5年間どうもありがとうございました。遅滞が多かったことをこの場でお詫びします。これからもがんばって下さい。

私と図書館

電気工学科 藤本 勝成

時の流れているのは、なァーンかすごくはやいもんで、入学してからもう5年もたってしまい、“卒業”となってしまう、そして“私と図書館”なんて題名で、おもいきり不得手な作文を書くはめになってしまったわけですが…そんで、なんでぼくなんかがこの書かなあかんようになったかっていうと、なんのことはない。ただ、たくさん本をかりたからってうだけのことです。だから、今、クラス中でも自分は人よりたくさん本をかりてんちゃうか？って思う人はヤバイんとちゃうなァって思います。まあ、文芸部の人とか、“ベジタブル”とかいうあやしげなものを書いている人達のような、作文だァーい好き！という人は別ですけど……。

ぼくは、確かに本をいっぱいかりましたけど、かりた本の100%が学術書で、文学とかは一冊でさえもかりたことがなく、学術書以外で、借りよくなァって思った本でお料理の本とかもあったんですけど……かりてる人はぜァーンぶ女の人なので、かりたら名前が残るしはずかしいので借りられませんでした。なァーんで人だし、小説とかでさえ読んだりしない、ほーんと無教養で、『最近読んだ本』はいつでも夏休みの課題図書！っていうような人なので、しょうもないわけのわからん文章しか書けませんので御了承下さい。

っと、前置きはこんなもんにして、本題にはいります。ここでは、さぼりのための図書館利用のknow howについて書きたいと思います。まず、テスト対策ですが、先生によっては、とても親切で、テストに誤りがあるとはいけないと、市販図書よ

り問題をそのまま出される先生もいらっしゃいますので、前期の中間テストが終わった時点で、テストと同じ問題が多発している本があるかどうか、ひたすらチェックを入れます。もし見つからなかったら、あきらめなァーないわけですが、幸運にも見つけることができれば、次のテストまでキープしつづけましょう。それからぼくは電気の学生なので、他の学科の先生のことはわかりませんが、J先生や情報のU先生（仮名）は非常に伝統を重んじられる先生で古いものを大切にされ、一度使ったテストさえも、捨ててはもったいないと再利用されることが多々ありますので、“レトロ”するのが、かなり有効だと思われま

す。今度は返却のコツですが、これについては御存知の方も多いただろうと思いますが、もし、返却日に遅れてしまったら、若い兄ちゃんか、若いほうのおぼさんの時に返却するのが怒られないコツです。

それから、大学へぜひ編入したい！と思っている人達へ…ですが、一般教科の本におきましては帯出者氏名のところに、ぼくの名前が連発している本が数種ありますので、一度、その本に目を通して見るのもいいと思います。けっこうむずかしい本ですので理解していくのは、なかなかしんどいとは思いますが……。

っと、だらだらと書いてきました。うまく図書館を利用すると、けっこうさぼりながらでも、大学なんかに行けたりして、あと何年間かは学生としてあそべるし、いろいろとおいしいんやいなァァって思います。最後になりますけども、月並みですが、『図書館をうまく利用して下さい。』

高専生活をふり返って

化学工学科 増田 光子

15歳の春、高専に入学してから5年の年月が過ぎ、いつの間にかもう成人式を終えた20歳の女になりました。この5年間は長かったのか、短かったのか？短かったと言えば、それにしても思い出が多すぎると思うし、長かったと言えば、今、“20歳の女”という言葉に大きな抵抗を感じている自分の精神の未熟さに気が付きます。とりあえず、私はこの世のすべての人々と物理的に同じ長さの5年という時間を、この矢田山の麓にある奈良高専で過ごしたことに間違いはありません。

そう、5年前私があこがれていたこと。少し照れ臭いですが、それは、“白衣を着て実験すること。”でした。なんだか科学者になったような気分、嬉しくて、毎週の実験を楽しみにしていたのを思い出します。が、いつの間にか白衣は薬品で汚れ、穴や染みができ、それはかわいそうな位、みすばらしい姿になっていきました。こんな風書くと、高専に来て夢破れたという風に思われるでしょうが、これは破れて元々の初恋のようなもの（ちょっと赤面しますね）であったようです。

さて、初恋に破れた私は、この後、何をしていたか?!これは鋭い質問ですね。私は随分悩んで、「いろんな人の音を聞いた」と、返答してみました。これはなかなか渋いと思い、自分自身、気に入ったので、これについて、少し書こうと思います。

私は5年間、吹奏楽をやっていた為か、音を鳴らすのは下手ですが、音を聞くのは大好きです。つまらない事で、イライラ、ヤキモキしている時、素敵な音を耳にすると、今までの心の中のうなりが静かになり、救われたような気分になります。音を聞くことは、私にとって“心の糧”であります。しかし、もっと身近な音があります。それが“人の音”、簡単にいえば“言葉”であります。高専生活の中で、一体私はどれだけの人々と言葉を交したでしょう。その中で「はっ!」とするような事が幾度もありました。言葉は時には音となり、人の心を振動させ、共鳴したり、うなりを生じたりするようです。

定期試験前、クラスメートの様々な言葉によってうなりを生じた私の心を、ある先生の「中位が良い」という言葉がどれほど力づけたことか。演奏会執行に関する決断の時、「向上心の無い者は、ばかだ。」という漱石の言葉がどれほど私の怠慢な心を打ち打ったことか!まだまだたくさんありますが、これらの言葉を思う度に、この世の全ての人々に感謝したくなります。「あなたがそうして居るから今の私が居るのです。」

高専は素敵な所です。私にはそれぞれの人の音が和音となって大きく鳴り響いているのが聞こえます。皆さんには聞えるでしょうか?耳を澄ましてみてもだめです。まず自分の音を鳴らすのです。音色は十人十色。どうぞお試し下さい。

図書館の有効利用について

化学工学科 磯 島 喜 生

唐突ではあるが、この図書館だよりを読んでいる皆さんは高専生活5年（一部の方は6年や7年も過ごすようですが）の間、図書館に来ることは何回あるのだろうか?

私は本が好きな関係もあって暇さえあれば図書館に来ていたのであるが、（カウンターに座っていた、ネクタイ締めた眼鏡野郎と言えわかる人も多いでしょう）そこでやって来る人を見てみると、あまり顔ぶれが変わっていないことに気付くのである。つまり私が覚えていられるくらいに、僅かな人（わたしゃ百人以上の人の顔など覚えておれません）しか利用していなかった様である。また借りていく本も、いかにもレポートに使うような専門書の類いか、でなければ授業に關した読物の本が多いようであった。

皆さんは、あまり図書館の利用法を知らないのか、さもなければ、はなから本を読む気がないのであろうか?（単におっくうなだけだったんでしょうけれどもね。）

そこで、私は卒業に当たって皆さんにこう言い残したい。

『図書館をもっと有効に使いたまえ』と。

例えば、図書館とは本を借りるだけの所ではないのである。友人との知的な会話（笑ってはいけない）をする所でもある。

ある図書館では数人用の仕切のある小部屋がたくさん用意してあって、そこではどんな会話をしても構わないのである。本高専の図書館には、残念なことにそのような施設はないが、節度を持った大きさの声ならばどんな話をしても良いのではないだろうか?

現にカウンターの前の閲覧コーナーでは、それをすでに実践している人もいるようである（これは別名ダベリングとも言いますが）。

また、図書館はレポートを書くためだけに存在しているわけでもない。私達の教養を豊かにする（笑ってはいけない）所でもある。

辞典の類いをよく閲覧しに来る人ならご存じであろうが、JISのコーナーの隣には、かの有名講談社のブルーバックスのシリーズがたくさん置いてある。この本こそ知識の宝庫と言わずして何

と言うのであろうか？

数学、物理、化学、機械、電気、趣味、生物、医学、その他諸々ありとあらゆる分野にわたってしかも専門的な知識がこまごまと書かれている、とても良い本だと私は思っている（すでに一度読まれた人はご存じでしょう）。

また、あまり専門的な本は嫌いだという人には、別のコーナーに趣味の本（工作やスポーツ、料理やお茶や作法の本など色々あります）もあるし、小説や文学関係の本もたくさん揃っている。

もしあなたの読みたい本がないのならば、カウンターにまで申し出てもらいたい。図書館に新たに入る本は、学生の希望する本を優先的に購入するようにしているのである（だからといって、ジャ○プやサ○デーを入れてくれというのは無理な話ではあります）。

もしあなたが基本的に本を読むのが嫌いだとしても、図書館は十分に利用できる所なのである。図書館は、一応ではあるが冷暖房は完備しているし、何よりも大変静かである（たまにそうでもない時もありますが）。この良い環境を利用して、心を休めに来る（笑ってはいけない）のも良い利用法であろう。

もしかしたらその時に、興味のある本をふと見付ける事ができるかもしれないし、その事から本を読むことが好きになるかもしれない。まあそういう良い状況にならないで、少々眠気を催してくるのもまたほほえましいであろう（こういう事を書くとも図書の人に怒られそうではあります。皆さん、図書館で寝てはいけません）。

これらだけでも図書館は大変利用しがいのある施設と言える。ま、他にもいろいろと人によって利用方法はあるのだろう、きっと。（私の図書館利用法と銘打って、皆さんの使い方を聞いてみたいものではありません）。

このすばらしい図書館（笑ってはいけない）を5年もの間、ほとんど利用しないで卒業するなんて、非常に勿体ない事をしているのではないだろうか（そこにいるあなたですよ、あ・な・た）。

もし、それでも私は図書館に不満がある、というのならばぜひカウンターに申し出てもらいたい。図書館はいつでも皆さんが使い易いように努力しているのである。今も試験的にはあるが利用時間の延長や、ブックポスト（利用時間外の返却の為のポストです）の設置などを考えておられるのである。これらは学生からの意見を取り入れたも

のなのである。

まだ図書館に不満があるというそのあなたも、張り切って申し出てもらいたい。

以上たたらとくだらない文を書かせていたが、図書館職員と間違われるくらい図書館にいた私としては、もっと皆さんに宝の山ともいえる図書館を利用してもらいたいのである。

最後ではありますが、あなたにも、本のおもしろさが伝わりますように……。

—合掌—

何冊読んだかな？

大学生協連ではさきごろ87年1～12月の「大学生協書籍ベスト10」を発表しました。

- ① 俵 万智『サラダ記念日』河出書房新社
- ② 石ノ森章太郎『マンガ日本経済史入門』
日本経済新聞社
- ③ “ 『マンガ日本経済史入門2』
- ④ 村上春樹『ノルウェイの森』講談社
- ⑤ B・アルバーツ『細胞の分子生物学』教育社
- ⑥ ドゥルーズ・ガタリ『リゾーム』朝日出版社
- ⑦ 村上 龍『愛と幼想のフェシズム』（上下）
講談社
- ⑧ NHK取材班『地球大紀行』
日本放送出版協会
- ⑨ R・F・ファイマン『光と物質のふしぎな理論』岩波書店
- ⑩ 中沢新一『虹の理論』新潮社 の10冊です。
（出版ニュースより）

皆さんは何冊読みましたか。

因に、奈良高専図書館の4、5月の貸出ベスト10は以下のとおりです。

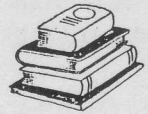
1. 化学工学便覧
2. ブッダ
3. 火の鳥
4. まんが道
5. ザ・C
6. はじめてのC
7. マンガ心理学入門シリーズ
8. 精講化学
9. ガスクロマトグラフィー
10. 親切な物理

63年度 読書感想文コンクール課題図書決定!

今年も読書感想文コンクールを、図書館委員会と国語科の共催で行います。教官から出された推薦図書を基に、委員会・国語科で検討し、以下の16点の図書を課題図書と決定しました。見本として、カウンターに並べますので、手引きといっしょによく見ておいて下さい。

＜文芸作品＞				＜非文芸作品＞			
坊っちゃん	夏目漱石	新潮文庫他	¥200	苦海浄土	石牟礼道子	講談社文庫	¥380
太郎物語(高校編)	曾野綾子	〃	¥360	非まじめのすすめ	森 政弘	新潮文庫	¥320
太陽の子	灰谷健次郎	〃	¥520	日本語のために	丸谷才一	〃	¥280
車輪の下	ヘッセ	〃	¥240	エレクトロニクスからの発想			
夏の夜の夢	シェイクスピア	〃	¥320	菊池 誠	講談社ブルーボックス	¥580	
青春の蹉跎	石川達三	〃	¥320	影の現象学	河合隼雄	講談社学術文庫	¥780
夜と霧の隅で	北 杜夫	〃	¥320	おとなになる旅	沢地久枝	ポプラ文庫	¥280
夢の島	日野啓三	講談社文庫	¥500	さくら隊八月六日	新藤兼人	岩波	¥250
				宇宙からの帰還	立花 隆	文春文庫	¥480

“一冊の本”を見つけよう



読書感想文コンクールの課題図書として、先生がたから、たくさん本の推薦がありました。若い学生諸君に、ぜひとも読んでもらいたいという本ばかりです。参考のため、推薦者名も入れて、以下に紹介します。課題図書と共に、読んで欲しいと思います。

〔書名〕	〔推薦者〕		
銀の匙(中 勘助・岩波)	細井	黒い雨(井伏鱒二・新潮)	井口高
さぶ(山本周五郎・新潮)	〃	それから(夏目漱石・新潮)	武田
あすなろ物語(井上 靖・新潮)	〃	仮面の告白(三島由紀夫・新潮)	武田
ベスト(カミュ・新潮)	〃	青春とは何か(真継信彦・岩波)	細井
嵐が丘(E・ブロンテ・新潮)	〃	戦艦大和(吉田 満・角川)	〃
カンガルー日和(村上春樹・講談社)	神沢	サイゴンから来た娘(近藤紘一・中公)	〃
サンルイスレイ橋(ワイルダー・岩波)	田端	古代への情熱(シュリーマン・岩波)	田中
ブンナよ木からおりてこい(水上勉・新潮)	大矢	世界をゆるがした十日間(J・リード・岩波)	田中
兎の眼(灰谷健次郎・新潮)	〃	わが青春の黒沢明(植草圭之助・文春)	田中
遠い落日―野口英世の生涯―(渡辺淳一・角川)	京兼	家郷の訓(宮本常一・岩波)	大矢
上杉謙信(吉川英治・講談社)	島岡	子どもたちの太平洋戦争(山中 恒・岩波)	〃
にんじん(ルナール・岩波)	石垣	絶対零度への挑戦(K・メンデルスゾーン・講談社)	伊瀬
ヴェニスの商人(シェイクスピア・岩波)	〃	若き数学者のアメリカ(藤原正彦・新潮)	西田
リア王(シェイクスピア・岩波)	〃	数学者の言葉では(藤原正彦・新潮)	〃
秘伝(高橋 治・講談社)	片倉	ガン回廊の朝(柳田邦男・講談社)	島岡
		おやじの国史とむすこの日本史(福田紀一・中公)	島岡
		微生物の狩人(上)(P・クライク・岩波)	石垣
		シルクロード(上)(ヘディン・岩波)	〃
		生命とは何だろう(中村 運・岩波)	〃
		考える理科10話(小野 周・岩波)	〃
		パスタール(川喜田愛郎・岩波)	末
		敬語(南不二男・岩波)	梅原
		創造の風土(江崎玲於奈・三笠)	泉

映画と読書で“アパルトヘイト”を学ぼう！

映画「アモク！」の全校鑑賞が決定した。

この映画を私が始めてみたのは、4年前の秋、東京六本木のシネヴィヴァンという大きくはないが設備のよい映画館である。「アモク！」をみて感動した私は、何とか奈良でも上映したいと考えて、関係している観客組織で、上映の権利を手に入れるよう主張し、県下でも上映できるようになった。そして今回は本校での観賞である。嬉しいことである。

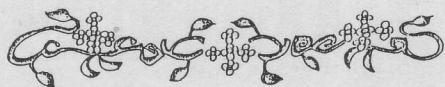
「アモク！」をみて感動したのは、二つの点である。一つは、それまで知識としては知らないわけではなかったが、南アフリカ共和国での人種差別アパルトヘイトへの峻烈な告発である。白人が黒人を人として認めず、動物並みの生活を強制する。あってはならないことである。そしてそのあってはならないことへの黒人の反発、意識のめざまが鮮烈に描かれる。

いま一つは、今まで知らなかったアフリカ映画のレベルの高さである。みなれた欧米諸国の映画とは異なり、後進国と云われるアフリカにも、このようなすぐれた映画がある。それは一つの驚きであった。

今年になって、イギリスの映画「遠い夜明け」が公開された。これは南アフリカを脱出した白人ジャーナリストのアパルトヘイト告発である。すでに見た人もあるだろうが、立派な作品である。あわせてみてほしいものである。

本校図書館では、「アモク！」の上映に合わせてアパルトヘイトに関連する図書の展示貸し出しを行っている。この方もぜひごらんをいただきたい。

(田中富士男)



図書館をどんどん利用しよう

学生図書委員長 4 E 平 井 一 男

最近、少しずつですが図書館の利用者が多くなってきているような気がします。

今までの利用者は、レポートを書く時、自習の時、あとはテスト前ぐらいで本の貸し出しも専門書ばかりでした。それが、最近では一般小説や一般教養書などの貸し出しが増えてきたように思います。

僕も昼休みなどに図書館へ行くのですが、本当に増えています。利用者が。マンガ本を入れたからかもしれませんが、とにかく良い傾向だと思えます。

でも、図書館を利用するうえで問題が少しあるのです。

まず利用時間、朝8時30分から夕方5時(土曜は12時30分)までですが、クラブが終わる時間が平均6時なのです。つまり、クラブが終わってから本を返しに行けないのです。

次に本の種類。多いとは思いますが少し古いものがほとんどなのです。教官方は基本は同じだか

ら関係ない、と言われますが、やっぱり少しぐらい新しい本を入れてほしいものです。

そこで図書館をどんどん利用しましょう。そうすれば利用時間も延ばしてもらえますし、みんなが新しい本を入れてほしいと言えば予算がおりるのです。

もっと図書館を利用して、我々の手でより利用しやすい図書館に変えていきましょう。

〔図書室より〕

◎ 四月から全校生を対象にコンピュータ貸出を行っています。いまのところ大きな障害もなく順調です。そのせいかどうか、このところ貸出冊数がかなり増えています。

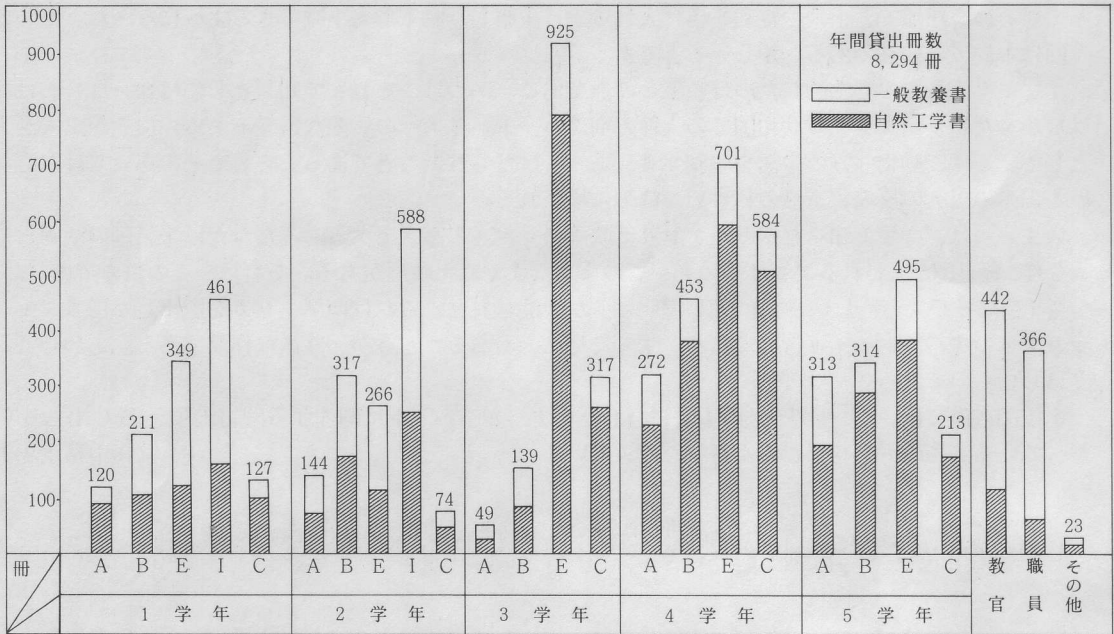
◎ 6・7月の月・水・金・土は、開館時間を30分延長します。(土のみ60分) せいぜいご利用を。

◎ 再び『購入希望図書』のノートをカウンターに置きました。買って欲しい本、誰かに是非読んでもらいたい本などがあれば、記入して下さい。

委員会と協議の上、本校図書館に備えるのにふさわしい本であれば期待に添いたいと思います。

昭和62年度 図書室利用統計

〔クラス別貸出冊数〕



〔蔵書冊数・分類別〕 昭和63年5月現在

種別	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	文庫書	合計
和書	2,154	1,991	4,506	2,548	10,597	14,665	218	2,709	2,740	7,612	4,169	53,909
洋書	345	253	81	94	1,855	1,500	1	33	766	1,420	0	6,348
合計	2,499	2,244	4,587	2,642	12,452	16,165	219	2,742	3,506	9,032	4,169	60,257

〔お知らせ〕

本年度図書館委員会のメンバーが右のように決まりました。昼食時には、図書室で待機して下さるので、学生諸君は、先生がたの“心ときめく書物”や、“必読の書”の紹介などを受けて下さい。

図書館委員会メンバー表（教官）

	図書部会	視聴覚部会	紀要部会
一般	○田 中(月)	田 中	神 澤(木)
機械	福 嶋(木)	○福 嶋	水 嶋(木)
電気	伊 勢(木)	井 口(木)	伊 勢
情報	世 古(金)	山 井(月)	世 古
化工	◎石 垣(木)	梅 原(金)	○梅 原

◎委員長 ○部会長 () 内は担当曜日